

春の歌

蒲原 有明

歡樂ふかくもえいづる
香を慕ふにも草嫩
細き葉がくれ身をよせて
羞ぢてひそめる花の影

羞ぢてかくるるさまながら
花はほがひのよそほひや
空には夢のたはぶれの
虹こそ淡くかかるなれ

唇を解く歌の君
春のたくみの手は高く
夕にはまた彩を織る
光は雲にながれけり

〈出典 『明治文學全集』 58 土井晩翠 薄田泣菫 蒲原有明集 (筑摩書房、一九六七年)〉

【著者】蒲原有明 (かんばらありあけ)
一八七五 (明治八) 年—一九五二 (昭和二七) 年
詩人。東京都の生まれ。

【著書】『草わかば』、『春鳥集』、『夢は呼び交わす』など